

『食と観光の連携』で地域活性化を

～食文化を核とした観光的な魅力度向上による地域活性化調査～

12月19日(月)、クリンクルセンターで『食文化を核とした観光的な魅力度向上による地域活性化調査』登別市ワーキンググループの会合が開かれました。

この調査は、『食と観光の連携』をテーマに、『食』の魅力の創出や再発見、ブランド化などを通じた地域の活性化策を調査・検討するもので、登別市のほか、福島県会津若松市、栃木県那須町、新潟県上越市が国からモデル地域に選ばれました。

各モデル地域では、『食のブランド化』『地元食材の付加価値向上』など、個別にテーマを設定。ワーキンググループが2月までに計4回の会合を行い、活性化策を報告書にまとめることにしています。

登別市では、『観光現場における「地産地消」の実現』と、観光客のニーズに応じ、宿泊するホテル・旅館以外でも食事ができるようにする『共存発展可能な「泊食分離」システムの確立』をテーマに設定。国や市、登別観光協会、伊達市農業協同組合、いぶり中央漁業協同組合などで構成するワーキンググループは、農業・漁業などの生産者やホテル・旅館に地元食材の消費状況、流通の問題点、新しい料理のアイデアなどの聞き取り調査、温泉街と連携した新しい宿泊形態の検討、温泉街での飲食をセットした宿泊商品の提供の実証実験などに取り組む予定です。



登別温泉街

できました。手作りのしめ飾り

～正月用しめ飾りづくり体験～



12月10日(土)、文化伝承館で『正月用しめ飾りづくり体験』が開かれました。

この催しは、郷土資料館の体験学習の一環で、手作りのしめ飾りで新年を迎えてもらおうと、毎年この時期に行われているもので、親子など26人が参加しました。

参加者は、郷土資料館ボランティアグループ『SLG』の指導を受けながら、スゲで縄をなう作業からスタート。慣れない作業に悪戦苦闘しながらも、縄を丁寧に輪の形にしていました。

最後に、松や稲穂、謹賀新年と書かれた札などで飾り付けし、約1時間で立派なしめ飾りが完成。参加者は、出来上がったしめ飾りを手に満足そうな表情を浮かべていました。

地域 みんなで子育てを

～家庭教育・子育て支援講演会～

12月13日(火)、市民会館で『家庭教育・子育て支援講演会』(市主催)が開かれました。

この講演会は、子育てに戸惑いを感じている保護者の方に、子育てのあり方やヒントを学んでもらおうと行われたもので、市内の家庭教育学級の会員や子育てに関心のある方などが参加しました。

今回は、室蘭市で子育て支援を行っている吉田淑恵さん(NPO法人『ワニワニクラブの仲間達の会』理事長)が『おせっかいおばさんの子育ての話』と題して講演。吉田さんは、「10人くらいの仲間で安い家賃の家を借り、そこを子育ての場にして、地域のおせっかいを買って出してくれるおばさんを仲間にしては」と参加者にアドバイスしていたほか、「子どもたちは不安を抱えています。地域 みんなで子どもたちを守ってあげたい」と述べていました。

